CASE.05
Town planning in North

新川さくら並木連合町内会　交通安全部

故郷でいただいた大きな恩を
新川の地域活動を通して
少しでも返すことができたなら。

私が思う、
北区の魅力・好きな場所

北区には、季節の移り変わりが感じられる環境のあるところがいいなと思っています。「北大のイチョウ並木」は秋もきれいで有名です。私が、一番好きなのは新川の「日本一長いさくら並木」の春でしょうか。花が満開になる時期は圧巻です。見ごろの季節に訪れて、その美しさをぜひ一度直接見てほしいです。

交通安全部長・連町理事・新川まちづくりセンター長ほか
岡本（おかもと） しのぶ さん

奥尻町出身。新川に引っ越して以来25年、地域活動のメンバーとして活躍。夢は地域の冬のお祭りで花火大会を実現させること。

交通安全運動は特に楽しい活動と話す岡本さん。町内会活動に携わるようになった当初、背中を押してくれた恩人が、交通安全運動に情熱を傾けた人でした。「活動に迷ったときは、今でもその方の姿や言葉を思い出します」

連町交通安全部長をはじめ、連町理事、新川第5町内会副会長、防犯パトロール隊の総務など、岡本しのぶさんの地域での肩書は五指に余るほど。街頭での交通安全啓発活動や、学校周辺での子どもの見守り、町内会のお祭りなど、地域活動のさまざまな場面で、中心的な役割を担うリーダーの一人ではありますが、現場では、町内会の役員から子どもまで、誰もが岡本さんのことを「しーちゃん」や「しのぶちゃん」と、親しみを込めて呼びます。「肩書で呼ばれるのは苦手なんです。だって、集まっている人はみんな、地域を良くしたいとか、この場を良くしたいという一心で活動している訳でしょう。そこに偉いとか偉くないとか関係ないもの。みんな気持ちは一緒ですから」と岡本さんは、はつらつとした笑顔を見せます。

岡本さんのモットーは、活動の場でみんなが楽しくなる雰囲気作りをすること。そのために何をすればいいかを常に考えてきました。

それは制限の多かったコロナ禍でも同じです。規模を縮小させたり、密にならない工夫を凝らしながら、人と直接触れ合うことの難しいこの苦しい期間に、少しでも心休まる時間を持ってもらおうと、年中行事を休まず開催させました。「周りの助けがあったからこそできたこと。本当に私は人に恵まれていると感じます」。

朗らかにフットワーク軽く、地域のために動き回る岡本さんのボランティア精神の源には、故郷・奥尻町での震災の経験があるといいます。大切な人やものを数々失ったつらい経験でしたが、「全国から集まったたくさんのボランティアの人に感謝してもしきれないほどお世話になった」と当時を振り返ります。その大きな恩を、いま新川で地域活動に携わることで、ほんのわずかでも返せているような気持ちだといいます。

2022年10月からは、新川まちづくりセンター長にも就任。さらに肩書が増えた岡本さんですが、スタンスは今までとまったく変わりません。「調和を取りながら、みんなで仲良く力を合わせてやっていく。周りの助けがあってこそ、楽しく活動ができると思っていますから」。